

陸上運動部部便り

2005年10月号

京大戦

目次

1 京大戦	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	1
1.3 女子主将の言葉	2
1.4 試合経過	2
1.5 試合結果	8
1.6 主務より	10
2 新主将・新女子主将・新主務の言葉	11
2.1 新主将の言葉	11
2.2 新女子主将の言葉	11
2.3 新主務の言葉	12
3 2005年度部内5傑 2005.9.28 現在	12

1 京大戦

1.1 監督の言葉

監督 八田 秀雄

78回の京大戦は9月24日に駒場で行われました。台風接近で朝から雨、午前中強く降りました。七大の結果からは、男子は厳しく女子も接戦が予想されました。最初の100mから1点勝ちではあるが米田が1位を逃すなど、悪くはないが今ひとつで始まります。400mとやりで1,2,3位をとられ、4×100mも勝てず、勝敗は午前中で決まってしまうしました。女子は午前は予想通りの接戦、しかし800mで1,2位が取れ勝ちが見えました。男子も午後は棒の7点勝ちを始め、5000mの5点勝ち、800m、三段で3点勝ちなど健闘した種目もあり、結局40点差の負け。投擲で30点、短距離で25点負けましたが、中長距離で7点、跳躍で8

点勝ちでした。七大で期待はずれだった跳躍はよくやりました。投擲も頑張りはしましたが、もう少しです。女子は6点差で勝ちました。個人では、1年尾崎が110Hと幅と2種目制覇。棒の大谷と合わせて1年生が3種目に勝ったのは、将来に明るいことでした。また400Hで2位になった伊勢田、800mや5000mでの最後の直線での踏ん張り等はよくやりました。女子では向田の3000m大会新や、清水の800m、倉員の砲丸などが目立ちました。これで男子4連敗、女子4連勝となりました。4年の男子部員には勝つことを一度も経験なく卒業させてしまうことは残念です。全体としてはそんなには悪くはないのですが、エースがあまり育っていない、特に上級生になって伸びないことが、ここ数年の結果になってしまっていると思います。小林先生が今年度で定年となります。部に対して多大の貢献をしていただいたことに感謝するとともに、小林先生抜きで今後どうなるのか不安も一杯です。ここのところいい結果が出ておらず体制変更も必要ですので、私も監督は今年度までとし、来年度から部長ということになりました。新監督はこれまで競歩選手を次々に育ててきてくれた寺田さんをお願いすることになりました。新監督の元で、何とか勝てるチームができてほしいと思っています。また強い東大陸上部となるには、皆様のご協力がさらに必要です。新監督をもりたてて、グランドや試合に来ていただきたくお願いします。

1.2 主将の言葉

主将 米田 武史

今回の京大戦は、台風の影響を受け雨の中で行われました。前評判は京都大学の有利を示していま

したが、雨と東京開催の地の利を生かして勝負をしていけば、決して勝負にならないことはない、ということで、部一丸となって勝利を目指しました。結果は残念ながら、今年も負けてしまいました。僅差の勝負に持ち込むことも出来ず、正直無念ではあります。私事ではあります、私の代は京大戦4連敗で卒業することになりました。先輩方に「4年の時の京大戦は特に勝ちたいものだよ」といわれていて、我々がその立場でいざ望むに当たり、その言葉がようやく実感したものであります。正直、悔しい気持ちはかなり強いです。その分、後輩たちにはぜひとも勝って卒業してほしいと思いますし、今回の戦いで頑張ってくれた後輩たちを見て決して不可能ではないと信じるのであります。諸先輩方には、これからの後輩たちの戦いを引き続き応援して下さりますよう、私のほうからもお願いいたします。最後に、今回で私は引退することになりました。一年間、OBOGの皆さんには非常にお世話になりました。ありがとうございました。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 向田 恵

今回の京大戦は時折激しい雨と風のふく中、駒場グラウンドにて行われました。七大戦の雪辱を晴らすために部員一丸となって望んだこの大会でしたが、当初の予想通り東大はトラックで、京大はフィールドで点を稼ぐという展開の接戦になりました。しかし最初の種目である100mで小原が優勝して勢いに乗った東大は、続く400mで京大戦が引退試合となる塩入が優勝、800と3000mでも向田が2冠を達成して走幅跳でスコルク負けした分を取り返し、さらには最後のリレーでも優勝。トラック種目を全制覇して見事4連覇を達成することができました。今回優勝することが出来たのは主力選手がきちんと実力どおりの力を発揮できたのに加えて、砲丸投で自己ベストを更新した倉員や800mで大健闘をした清水のように実力以上の力を出せた選手がいたからだと思います。まさに女子部員全員で勝ち取った優勝だったと言えるでしょう。これから長い冬季練習に入りますが、この勝利の喜びを忘れずに来年もさらに躍進でき

るよう頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、今回グラウンドまで応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、本当にありがとうございました。これからも更なるご支援、ご声援のほどよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:00 男子 100m 決勝

3レーンに瀧山(3年)、5レーンに米田(4年)、7レーンに斎藤(1年)の出場。米田はこの種目3連覇がかかる。スタートの号砲と共に勢いよく飛び出したのは米田と京大の瀬々井。まずは2人が抜けた形となる。しかし、その後なめらかに加速していく瀬々井に対して、米田は関カレ七大戦で見せたような他を圧倒する爆発力が見られない。じりじりと引き離され次第に苦しい表情になっていく。結局、終盤追い込むこともままならず1位と0.10秒差の11"26の2位でフィニッシュ。9月以降の“走れていない”状態を修正しきれなかったようだ。これまで新走法、新スタートをあれこれと模索していた瀧山。イメージ通り走れば十分勝機はある。しかしスタートで少しバランスを崩し、前の2人から遅れをとってしまう。その後、必死に食らいついていくが、相手は両校のエース級、なかなか差が縮まらない。それでも終盤立て直し、追い込んで11"39の3位に食い込んだ。斎藤は今年の夏以降、急成長を見せている期待の1年生。練習におけるダッシュ力、絶対スピードは上級生にも引けをとらない。そんな彼も京大戦という大舞台の上では思うように力を発揮できなかった。スタート自体は悪くはなかったものの、中盤以降徐々に遅れ、なんとか京大を1人抑えて11"45の5位でゴール。今後たくさんの大会で経験を積み、どんな舞台でも安定して力を発揮できる選手となることが望まれる。このとき風は+0.4mであった。

10:05 女子 100m 決勝

東大は3レーンに小原、5レーンに倉員が出場。小原はスタートから他選手を引き離し、リードを保ったまま危なげなく首位でゴール。13"19の好タイムであった。倉員は出鼻から遅れてしまい、その後善戦するも一歩及ばず、14"53の4位でゴール。このとき風は-0.9mであった。

10:15 男子 1500m 決勝

新井(3年)、橋本(3年)、割沢(3年)の出場。序盤は新井が先頭に立ちレースを引っ張る形となるものの、スローペースとなり全員で集団を形成する。これは本来800mを専門とする橋本、割沢に有利な展開。2周目の途中からは京大の岡本が先頭に立つがペースは上がらず、依然として全員ひと塊でレースは進んで行く。終盤にさしかかると橋本と京大選手の1人が遅れだし4人の集団となる。ラスト1周に入り京大の岡本がスパートをかけると新井・割沢もペースを上げるが、岡本からは大きく引き離されてしまう。それでも京大の2番手の選手を突き放して新井が4'09"69の2位、割沢が4'10"81の3位でゴールし、しっかりと役割を果たした。橋本はラストで追い込んだものの4、5位の選手にわずかにおよびず4'14"44の6位に終わった。勝ち越しを期待されていたこの種目で1点負け越しとなり、残念な結果であった。

11:45 男子 400m 決勝

2レーンに沖田(2年)、4レーンに田中(4年)、6レーンに今村(2年)の出場。沖田はいつもの序盤は抑え気味のレース展開で、相手の様子を見ながら後半に望みをかけた。後半伸びてきて京大の選手を脅かすが一歩とどかず、51"29の4位でゴール。田中は序盤から積極的な走りを見せ、先頭集団の中心にたち、選手を引っ張っていった。その影響からか、後半バテが見られ、思うように足を動かすことができず後方からの選手に追い上げられ、52"28の6位でゴール。今村も序盤から飛ばしていき、先頭集団に絡む走りを見せていたが、京大の選手の後半の追い上げについていくことができず必死の粘りを見せるも、51"78の5位でゴールした。

11:50 女子 400m 決勝

3レーンに小原(3年)、5レーンに塩入(5年)の出場。レースは最初から東大勢二人が力の差を見せつけて先行する展開。塩入は終始落ち着いた走りでもリードを広げ、他選手に付け入る隙を与えず60"37で貫録勝ち。見事3連覇を達成した。小原も持ち前のスピードで食らいつき、さすがに持久力では塩入にかなわなかったものの、62"79の2着でゴール。東大のワン・ツーフィニッシュとなった。

12:10 男子 110mH 決勝

2レーンに田中(5年)、4レーンに尾崎(1年)、6レーンに梅沢(3年)の出場。田中は1台目までは好スタートを見せるが、ハードルの練習が不足していたこともあり抜き足がやや遅れてしまう。その後も上位との差は徐々に広がるが最後は必死のフィニッシュで15"82の4位でゴール。尾崎は好スタートを見せ中盤まで京大の二人と激しくトップを争う。中盤以降は持ち前のスプリントを生かしてゴール直前で競り勝ち15"23の1位でゴール。梅沢は1台目からやや遅れをとってしまう。その後もスピードに乗り切れず着地でぐらついた台もあり、最後はゴール直前で隣のレーンの京大にわずかに競り負け16"00の6位でゴール。このとき風は-0.2mであった。

12:30 男子 4 × 100mR 決勝

5レーンに尾崎(1年)-瀧山(3年)-斉藤(1年)-米田(4年)のオーダーで出場。尾崎は110mHと走幅跳に出場するハードスケジュールのためか、うまくスピードに乗ることができない。瀧山へのバトンパスでももたつき、バトンが渡る時点ですでにインコースの京大に抜かれてしまう。瀧山と斉藤は双方悪くない走りであったが、さほどのキレもなく、じりじりと差を広げられる。こうなるとアンカー米田の猛追が期待されたが、ベストには程遠い状態の米田はいつもほどのスピードがなく、力及ばず43"23の2位でゴールした。今季、試合でことごとく結果を出せなかった4継チームには猛省が求められる。

13:00 男子 800m 決勝

1レーンに村井(4年)、3レーンに新井(3年)、

5レーンに庄司(4年)の出場。スタートは各自順調に滑り出したが、200m過ぎから京大岡本が徐々に抜け出し他の追隨を許さず独走。後方集団は混戦となる。集団は400mを56秒で通過する。熾烈な2位争いの中、最後尾につけていた新井が前の選手を一気に抜き去り1'56"07で2位。4年生の意地を見せた村井は1'59"60の3位でゴール。庄司は体調を崩していたもののチーフとして粘りのある走りを見せ、1'59"74の4位でゴールした。

13:05 女子 800m 決勝

1レーンに向田(3年)、3レーンに清水(3年)の出場。京大のオープン出場の選手1名を含む5名でのレースとなった。スタートと同時に向田は先頭に立ち、自分のペースでレースを進める。清水も積極的に集団の前の方につける。向田は徐々に後続との差を広げ独走体勢に入る。清水は少し離れた集団の中で一周目を通過。3000mに向けて力を温存したい向田は無理にペースを上げずに落ち着いた走りに切り替えるが、それでも差をつめられることなく最後まで安定した走りを見せ、2'33"33の1着でゴール。見事、京大戦初優勝を果たした。清水はバックストレートで順位をさげてしまうが、必死に前の選手に喰らい付く粘りを見せる。ラストの直線では逆に2人を抜き返し、オープンの選手に続く3着でゴール。これでこの種目スコンク勝ちとなり、女子総合優勝に向けて大きく前進した。

13:40 男子 200m 決勝

2レーンに瀧山(3年)、4レーンに相川(3年)、6レーンに米田(4年)の出場。瀧山はスタート後から中盤の位置で走り、カーブの100mは落ち着いたレース運びで先頭との距離を保ったまま抜けた。直線に入っても失速せず中盤から追い上げを見せるが、ラストのスピードにキレがなく23"20の4位でゴール。相川はスタートで出遅れてしまい、後方から追い上げを図るレース展開となる。しかし、グランドコンディションの悪さもあってか、スピードに乗り切れずなかなか前との差を詰められず、最後は京大の選手に100分の1秒差で抜かれ、23"42の6位でゴール。米田

は好スタートを見せ、加速も順調で初めの100mでトップを走る。しかし、カーブを抜けたあたりから、疲れから若干の体のブレと共に、スピードが落ちていき後方集団に飲み込まれる。だが、実力の差から、ラストの粘りで抜き返し23"08の2位でゴール。この時、風は-0.6mであった。降雨による悪条件のなかの厳しいレースとなった。

14:15 男子 400mH 決勝

1レーンに平林(2年)、3レーンに伊勢田(2年)、5レーンに門脇(1年)の出場。レース開始早々、全日本インカレ出場の京大の水谷が積極的に前に出る。伊勢田は、スタートこそ控えめなもの、400mを50秒台の走力で、じりじりと京大の選手を追い上げる。完全に劣勢かと思われた第4コーナーで京大の2番手、3番手を一気にとらえ、ホームストレートで2番手となりフィニッシュ。タイムは56"75であった。平林は1台目のハードルで若干高く飛んでしまい出遅れる。それ以降も頑張るが、走力で離されて行き差は縮まらず、結局62"73の6位でフィニッシュ。門脇はベストが57秒台ということで、ハードリングに関してはかなり上手だったが、スピードが上がらずじりじりと京大に離される。結局60"84の5位でフィニッシュした。

14:40 女子 3000m 決勝

向田(3年)、清水(3年)の出場。雨もやみ、やや蒸し暑いながらもまずまずのコンディションでのスタートとなった。スタートからしばらくの間、集団は一つのまま600mを通過。しかし、1000m付近で向田と京大の川口、清水と京大の中村の2集団に別れる。向田の通過タイムは3'34、清水は3'48。その後、徐々に集団が崩れ2000mを過ぎると全選手が一人旅となる。ここで向田は完全にトップに立ち2000mを7'15で通過後、一気に後続を引き離しにかかる。清水は京大の中村からも離れ、最後尾での苦しい走りとなる。向田はそのまま危なげない走りでトップを守り、見事優勝。800mに続き、3000mも制覇し、女子主将の名に恥じない活躍を見せた。タイムは10'52"31であった。清水は800mとのダ

ブルエントリーの疲れもあり、ラストパートで追い上げるも、結局 11'58"96 で4位となった。

15:00 男子 5000m 決勝

宮崎(4年)、松本(2年)、石原(2年)の出場。雨も風もない絶好のコンディションの中でのスタート。スコンク勝ちが狙える種目であり応援側の期待も高まる。松本を先頭に、集団のまま1000mは3'02で通過。その後夏合宿から好調の宮崎が前に出る。集団は崩れずに2000mを6'08で通過すると、今度は石原が引っ張る。2800m過ぎに京大の宮木が集団から離れ、宮崎も苦しそうな表情となる。集団は3000mを9'17で通過するが、宮崎はここで遅れる。集団が4人となったところで松本が前に出る。以降大きなペースアップはないままレースは進み残り2周になったところで京大の2人が前に出る。しかし仕掛けたというほどのものではなく、松本、石原ともに2人につく。残り1周で松本が猛然とスタートして他の3人を大きく引き離し、そのまま1着でゴール。怪我が完治していない松本、記録は15'20"12と平凡であったがラスト400mを61"でまとめ、力の違いを見せつけた。石原は京大勢にやや離されたかに見えたが、ホームストレートで一気にかわして2着に入り、東大の応援サイドを大いに湧かせた。記録は15'30"66であった。宮崎は先頭集団からは大きく離されてしまい、15'57"32の5着でゴール。最後の京大戦で一時は前に出る積極的な走りも見せたが、残念な結果に終わった。引退レースとなる箱根予選会での奮起が望まれる。この種目で5点勝ち越したものの目標のスコンク勝ちはならなかった。

15:30 女子 4 × 100mR 決勝

5レーンに小原(3年)-塩入(5年)-本間(2年)-倉員(1年)の走順で出場。小原は一橋戦で3冠、今回の京大戦でも100mを圧勝し調子は絶好調。4人全員を短距離選手にできない人材不足の中、1走で先制を狙う。スタートはまずまず。駒場トラック特有のすぐ近くにいる観客にも惑わされず、落ち着いて出た。中盤の加速力は抜群。そのまま流れるようにバ

トンは2走塩入へ。十分に加速をつけてバトンを手にした塩入は、全力でバックストレートを疾走する。既に400mを制しているにもかかわらず、その走りは全く乱れない。持ち前の伸びもあって、京大をぐんぐん引き離す。そして3走本間へのバトンパスへと向かう。本間は、バトンをもらう時、いつも早く出過ぎてしまうことが課題だった。しかし、今回はそれを修正し、良いタイミングでスタートを切った。途中、インレーンの京大がコーナーを使って攻め込んでくるが、前半の2人が作ったリードをなんとか保ち、アンカー倉員へとバトンを託す。倉員は1年生の新人。陸上を始めて、まだたった半年だという。走りはまだまだ荒削りだが、すでに様々な対校戦で活躍、入賞を果たしている。バトンはスムーズにつながり、ホームストレートに出た時には、既に数メートルの差があった。ゴール直前で少し動きが固くなり、京大が追い上げてくるが、そこは逃げきり1位でフィニッシュ。記録は53"64。女子の総合優勝に華を添えた。

15:40 男子 4 × 400mR 決勝

5レーンに今村(2年)-田中(4年)-小澤(2年)-沖田(2年)のオーダーで出場。1走今村は地力で勝る京大に徐々に追い込まれるが、許すリードを最低限におさえ、2走田中にバトンを渡す。これが最後の対校戦の田中。バックストレートで京大を追い込み、後半も粘りのあるよい走りを見せる。3走小澤は、序盤は何とか食い下がるも、やはり京大の3走水谷との力の差は大きく、じりじりと離される。4走沖田にバトンが渡るときにはその差は決定的なものになっていた。沖田は追走するも、もはやいかんともしがたく、勝負をさせてもらえないまま3'25"77の2位でフィニッシュした。京大に5秒近く差をつけられる悔しい結果であったが、田中以外の3人は全員2年生という若いリレーチームである。この経験を来年以降に活かしてもらいたい。

フィールド

10:00 男子 走高跳 決勝

田中(5年)、持永(3年)、小福田(1年)の出

場。明け方からの雨により、滑りやすいコンディションであった。持永は、とりあえず記録を残すため、1m50から試技を開始。1跳目で難なく成功する。持永は、後に2種目控えていることもあり、1m65までパスし、1m70に挑戦するが、踏切位置がやや合わず、3跳とも失敗。結果、1m50の6位であった。小福田は、1m60から試技を開始する。これを1跳目で成功するが、1m65は、3跳とも踏切が全くうまくいかず、失敗する。結果、5位に終わる。田中は、1m70から開始する。1m70、1m75とも1跳目で成功するが、ややギリギリであった。1m80は何とか3跳目で成功するが、これがかえってプラスに働き、1m85、1m90とも余裕で1跳目で成功する。これで1位が確定したため、2m00に挑戦するが、あと一歩及ばなかった。

10:00 男子 円盤投 決勝

合田(3年)、関原(2年)、庄司(2年)の出場。春のグラウンド改修で、サークルはかなり滑りにくくなっており、少しばらつき始めた雨による競技への影響はそれほど無かった。合田は、1投目をやや慎重に投げて35m72の記録を残す。この記録で1位はほぼ確定し、後半は記録を狙って思い切った投擲に切り替えた。最終的には、4投目にシーズンベストまであと3cmに迫る37m12を投げ、1位となった。関原は、1、2投目ともファールしてしまう。肩に少し痛みがあったため、得意のやり投げに集中するために3投目は記録を残すだけの投げになってしまった。そして後半の試技はパスし、その時点で23m93での6位が確定した。庄司は前半安定した投擲を見せ、そのうちの2投目で30m73の自己ベストを出す。後半は逆転を狙って思い切り投げるが、記録は伸ばせず、結局30m73で5位となった。この種目、東大は1、5、6位で3点負けであった。

11:30 男子 走幅跳 決勝

相川(3年)、竹内(3年)、尾崎(1年)の出場。相川は思うように調子が上がらず、6m20前後のジャンプを繰り返した。後半、助走は良くなってきたものの記録はあまり伸びず、結

果6m30で4位となった。竹内は京大戦直前に足首を痛めてしまい苦しい展開となった。ここ最近の調子は悪くなかったので、1本だけでも引っかければ...との期待もあったが、結局大ジャンプを見せることはできなかった。何とか記録は残し、5m81で5位となった。尾崎は今シーズン確実に実力を伸ばし続けていて、先日の記録会では追い風参考ながらも7m10を跳んでいた。今回は幅跳びの競技中に4×100mリレーと110mHにも出場するという忙しい状況であったが、2本目、6m95の好記録をマークしてトップとなる。踏み切り板の手前で跳んでいたのが惜しいところだ。後半はさすがに疲れて記録は伸ばせなかったが、このまま逃げ切り、6m95で1位となった。

11:30 女子 走幅跳 決勝

小原(3年)、本間(2年)の出場。小原は1跳目から4m63と好記録を出す。400mと時間が重なっていたため途中ぬけるが、その後も4m後半のジャンプをみせる。しかし、1跳目を上まわることはできず、惜しくも京大の2番手に届かず3位であった。本間は3本連続でファールしてしまう。4、5跳目には記録を残したが、結局4m35で4位という残念な結果に終わった。

11:30 男子 やり投 決勝

東大からは石井(4年)、関原(2年)、葉梨(1年)の出場。男子やり投げは、台風の影響からかなりの横風が吹く中で行われた。全体的に悪いコンディションから東大、京大の選手ともにファールが先行した。しかし、このコンディションの中でも、京大勢は2人が今季ベストを更新し、3人ともに、50mを超えるという好結果を残した。一方、東大勢はというと、石井は東医体以来の自己ベスト更新と、自身初となる50m越えを目指し臨んだ試合であった。記録は自己ベストに迫るものの47m64で第5位であった。関原はケガをおしての出場であり、多くのものが心配していたが、このコンディションのなかで、4投目に今季自身2番目の記録となる48m80を投げ6位であった。京大勢には届かなかった

ものの今後の活躍が期待される。葉梨は京大戦という独特の雰囲気最後まで呑まれたのか、1投目から失敗投擲を繰り返し、最後まで修正することができなかった。結局1投目の39m15を投げるのが精一杯で第6位であった。今季、関原、石井の好調から、投擲種目の中で京大に食い下がる種目のひとつとされてきただけに、残念な結果に終わってしまった。

13:00 男子 棒高跳 決勝

持永(3年)、木村(2年)、大谷(1年)の出場。木村は最初の高さの2m80から試技開始し、2m80を1回目でクリア。続く2m90は上手く体が上がらずに2回失敗するが3回目で修正して成功。これで良い感覚を掴んだのか3m00、3m10、3m20と順調にクリアする。3m30は疲れて、腕がつぶれて体がまっすぐ上がらず3回共に失敗。ここで試技終了。最近好調の持永だが雨のため慎重に3m30から試技開始。3m30は高さはあるもののアップライトが合わず2回失敗して周りを冷や冷やさせるが、3回目で修正して成功。続く3m40はパスして、3m50は余裕のある跳躍で1回で成功。続いて3m70にバーを上げ、ポールを1段階硬いポールに変えるが、助走に切れがなく3回共に失敗。ここで試技終了。大谷も雨のため慎重に3m30から跳び始め、3m50、3m70と余裕のある跳躍でしっかりと跳んでいく。ここで1位が確定したため今季持ち記録の4m00にバーを上げるが、3回共に跳び急いでしまい体が上がらず、ここで試技終了。結果大谷が3m70で1位、持永が3m50で2位、木村が3m20で4位となった。

13:00 男子 砲丸投 決勝

合田(3年)、持永(3年)、小林(2年)の出場。雨が降り始めてサークルに水たまりが出来たため、開始に少し手間取りつつも定刻どおり競技が開始される。持永は練習を続けていた回転投げを1投目で披露し、会場を沸かせるものの、崩れてしまい記録は7m71にとどまる。合田、小林も着実に残そうとするものの、雨の中滑ってしまい苦戦する。両校ともベストを尽くせないまま3投目までを終了し、後

半戦に入る。この頃に激しい雨は収まったものの、滑りやすさに変化はなかった。持永は6投目まで失敗を続け、1投目の記録を塗り替えることなく6位に終わる。合田は雨のせい、本来の投げができずに9m92の記録を残し、5位となる。小林はなんとか自分の投げにつなげることができたが、京大の3番手に追いつくことができず、10m38で4位となった。

13:00 女子 砲丸投 決勝

本間(2年)、倉員(1年)の出場。本間は2投目で6m97を投げるがその後記録を伸ばせず3位。倉員は4投目で自己ベストを更新する7m70を投げ2位となった。

14:30 男子 ハンマー投 決勝

合田(3年)、小林(2年)、庄司(2年)の出場。昼になっても気温があまり上がらず、投擲にとって決して良いとはいえない状況の中で試合が行なわれた。合田は1投目に29m36を投げる。それ以降も思い切った投擲を重ねるが、バランスを崩すなどして2投目以降は全てファールしてしまう。結局1投目の記録で5位となった。小林は、1、2投目をまっすぐ投げることができずファールしてしまう。しかし、3投目はしっかり範囲内に入れ、25m88と、自己ベストの投擲をする。後半は、確実に投げるが記録は伸びず、3投目の記録で6位になった。庄司は慎重に前半の試技をこなして行き、3投目で29m37まで記録を伸ばす。しかし、4投目で京大の3番手に逆転され、後半は再逆転を狙って投げていく。なんとか6投目で29m38に記録を伸ばしたものの、再逆転できず4位となった。結局、東大はこの種目でスコンク負けを喫し、9点負けであった。

14:30 男子 三段跳 決勝

佐野(3年)、倉員(2年)、武安(1年)の出場。直前に雨が止み、冷涼多湿な中での試合となる。佐野は全体を通して安定感のある跳躍を見せてくれた。去年の冬季から続く基本動作の練習の積み重ねが活かされ、比較的安定したステップを刻む。しかし、まとまった跳躍を意識した反面、助走のスピードとホツ

プの大きさを欠き、13m 台中盤に記録が集中してしまった。結果、4本目の13m64が決勝記録となる。倉員は怪我の影響で跳躍練習が若干不足していたにも関わらず、1本目からホップを大きく跳び、攻めの姿勢を見せる。前半はステップで腰が落ちる跳躍が続くが、徐々に調整して3本目の13m49を機に記録を伸ばしてくるかに思えた。だが、助走のスピードを欠き、記録を伸ばせずに試技を終えた。武安は七大戦に続き2回目の対抗戦出場。足裏全体での跳躍を心がけ、前回に比べまとまった跳躍をする。しかし、逆にバランスのとれた跳躍を目指したことが裏目に出て、助走とホップの精彩を欠き、13m31におわる。順位としては2位、3位、4位を占め、最低限の仕事はしたとも言えるが、各々の競技内容を見ると、スピードを上げた助走、見落とされがちなホップ等、今冬を通して練習を見直すべき課題が浮き彫りになったとも言える。相互にアドバイスを交わしながらスキルアップを図り、来年度の京大戦では必ずスコンク勝ちができるように、充実した冬を送ることが期待される。

1.5 試合結果

第78回東京大学・京都大学対校陸上競技大会
第4回東京大学・京都大学対校女子陸上競技大会

於 東京大学教養学部第一グラウンド
(H17.9.24)

男子 100m 決勝 (+0.4)			
1	瀬々井巖士	京都大	11"16
2	米田武史	東京大	11"26
3	瀧山健	東京大	11"39
4	白方朗史	京都大	11"42
5	斉藤拓海	東京大	11"45
6	松井延行	京都大	11"53

男子 200m 決勝 (-0.6)			
1	杉本昌大	京都大	23"03
2	米田武史	京都大	23"08

3	石田真大	京都大	23"17
4	瀧山健	東京大	23"20
5	松井延行	京都大	23"41
6	相川啓佑	東京大	23"42

男子 400m 決勝			
1	白方朗史	京都大	49"47
2	水谷太郎	京都大	49"89
3	高瀬雄一郎	京都大	50"66
4	沖田朋慶	東京大	51"29
5	今村岳	東京大	51"31
6	田中佑貴	東京大	52"28

男子 800m 決勝			
1	岡本英也	京都大	1'54"39
2	新井邦生	東京大	1'56"07
3	村井昂志	東京大	1'59"60
4	庄司一郎	東京大	1'59"74
5	前川真彦	京都大	1'59"95
6	葭中聡	京都大	2'08"63

男子 1500m 決勝			
1	岡本英也	京都大	4'05"49
2	新井邦生	東京大	4'09"69
3	割沢高行	東京大	4'10"81
4	加藤圭祐	京都大	4'13"71
5	山下輝芳	京都大	4'14"10
6	橋本淳	東京大	4'14"44

男子 5000m 決勝			
1	松本翔	東京大	15'20"12
2	石原宏尚	東京大	15'30"66
3	近藤学宏	京都大	15'30"87
4	宇部達	京都大	15'31"05
5	宮崎哲平	東京大	15'57"32
6	宮木貴志	京都大	16'30"15

男子 110mH 決勝 (-0.2)			
1	尾崎翔	東京大	15"23
2	水谷太郎	京都大	15"28
3	萩澤佑樹	京都大	15"36
4	田中啓	東京大	15"82
5	白方朗史	京都大	15"99

6 梅沢啓 東京大 16"00

男子400m H決勝

1	<u>水谷太郎</u>	京都大	55"53
2	<u>伊勢田明弘</u>	東京大	56"75
3	<u>前川真彦</u>	京都大	57"71
4	<u>桑原昇</u>	京都大	58"82
5	<u>門脇啓太</u>	東京大	60"89
6	<u>平林学</u>	東京大	62"73

男子4 × 100mR 決勝

1	京都大	42"88
2	東京大	43"23

(尾崎-瀧山-斉藤-米田)

男子4 × 400mR 決勝

1	京都大	3'20"81
2	東京大	3'25"77

(今村-田中-小澤-沖田)

男子走高跳決勝

1	<u>田中啓</u>	東京大	1m90
2	<u>横矢龍之介</u>	京都大	1m85
3	<u>松久佳弘</u>	京都大	1m75
4	<u>田畑康平</u>	京都大	1m70
5	<u>小福田大輔</u>	東京大	1m60
6	<u>持永新</u>	東京大	1m50

男子走幅跳決勝

1	<u>尾崎翔</u>	東京大	6m95(+2.0)
2	<u>杉本昌大</u>	京都大	6m93(+0.7)
3	<u>垣畑陽</u>	京都大	6m74(-0.2)
4	<u>相川啓佑</u>	東京大	6m30(+0.3)
5	<u>竹内昌男</u>	東京大	5m81(+0.9)
6	<u>高橋孝治</u>	京都大	4m06(± 0.0)

男子三段跳決勝

1	<u>横矢龍之介</u>	京都大	14m33(+0.5)
2	<u>佐野太郎</u>	東京大	13m64(+0.4)
3	<u>倉員智瑛</u>	東京大	13m49(-1.7)
4	<u>武安光太郎</u>	東京大	13m63(-1.4)
5	<u>北島明文</u>	京都大	13m17(± 0.0)
6	<u>三浦裕介</u>	京都大	11m19(-0.1)

男子棒高跳決勝

1	<u>大谷真人</u>	東京大	3m70
2	<u>持永新</u>	東京大	3m50
3	<u>田畑康平</u>	京都大	3m30
4	<u>木村剛</u>	東京大	3m20
5	<u>平野聖</u>	京都大	3m10
6	<u>萩澤佑樹</u>	京都大	3m00

男子砲丸投決勝

1	<u>森川陽介</u>	京都大	12m50
2	<u>垣畑陽</u>	京都大	11m02
3	<u>萩澤佑樹</u>	京都大	10m96
4	<u>小林宗隆</u>	東京大	10m38
5	<u>合田隆彦</u>	東京大	9m92
6	<u>持永新</u>	東京大	7m71

男子円盤投決勝

1	<u>合田隆彦</u>	東京大	37m12
2	<u>森川陽介</u>	京都大	34m16
3	<u>垣畑陽</u>	京都大	32m82
4	<u>田中聡一</u>	京都大	32m34
5	<u>庄司宇</u>	東京大	30m73
6	<u>関原孝之</u>	東京大	23m93

男子ハンマー投決勝

1	<u>田中聡一</u>	京都大	42m74
2	<u>木村克也</u>	京都大	34m66
3	<u>松田俊</u>	京都大	30m59
4	<u>庄司宇</u>	東京大	29m38
5	<u>合田隆彦</u>	東京大	29m36
6	<u>小林宗隆</u>	東京大	25m88

男子やり投決勝

1	<u>山本貴之</u>	京都大	52m63
2	<u>松田俊</u>	京都大	52m16
3	<u>野々垣春戸陽</u>	京都大	51m15
4	<u>関原孝之</u>	東京大	48m80
5	<u>石井仁也</u>	東京大	47m64
6	<u>葉梨輝</u>	東京大	39m15

男子トラック順位

1	京都大	101
---	-----	-----

2 東京大 83男子フィールド順位

1	<u>京都大</u>	95
2	<u>東京大</u>	73

男子総合順位

1	<u>京都大</u>	196
2	<u>東京大</u>	156

女子100m決勝(-0.9)

1	<u>小原明恵</u>	<u>東京大</u>	13"19
2	<u>早瀬紗也佳</u>	<u>京都大</u>	13"66
3	<u>河合春菜</u>	<u>京都大</u>	14"38
4	<u>倉員麻奈美</u>	<u>京都大</u>	14"53

女子400m決勝

1	<u>塩入敦子</u>	<u>東京大</u>	60"37
2	<u>小原明恵</u>	<u>東京大</u>	62"79
3	<u>林奈央</u>	<u>京都大</u>	68"15
4	<u>川口紗弥香</u>	<u>京都大</u>	72"96

女子800m決勝

1	<u>向田恵</u>	<u>東京大</u>	2'33"33
2	<u>清水里紗</u>	<u>東京大</u>	2'39"24
3	<u>片山裕美子</u>	<u>京都大</u>	2'41"19
4	<u>横田裕子</u>	<u>京都大</u>	2'43"05

女子3000m決勝

1	<u>向田恵</u>	<u>東京大</u>	10'52"31
2	<u>川口紗弥香</u>	<u>京都大</u>	11'18"28
3	<u>中村有里</u>	<u>京都大</u>	11'53"20
4	<u>清水里紗</u>	<u>東京大</u>	11'58"96

女子4×100mR決勝

1	<u>東京大</u>	53"64
(小原-塩入-本間-倉員)		
2	<u>京都大</u>	54"26

女子走幅跳決勝

1	<u>早瀬紗也佳</u>	<u>京都大</u>	4m86(±0.0)
2	<u>森村あかね</u>	<u>京都大</u>	4m69(+1.4)
3	<u>小原明恵</u>	<u>東京大</u>	4m63(±0.0)
4	<u>本間諒子</u>	<u>東京大</u>	4m35(±0.0)

女子砲丸投決勝

1	<u>早瀬紗也佳</u>	<u>京都大</u>	7m87
2	<u>倉員麻奈美</u>	<u>京都大</u>	7m70
3	<u>本間諒子</u>	<u>東京大</u>	6m97
4	<u>森村あかね</u>	<u>京都大</u>	6m69

女子トラック順位

1	<u>東京大</u>	28
2	<u>京都大</u>	18

女子フィールド順位

1	<u>京都大</u>	12
2	<u>東京大</u>	8

女子総合順位

1	<u>東京大</u>	36
2	<u>京都大</u>	30

1.6 主務より

京大戦の応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々を卒業年順に敬称略でご紹介いたします。大雨の中、誠にありがとうございました。

1948年 山崎英也
 1953年 大羽益雄
 1957年 藤田宏明
 1958年 浦野穩昌
 1960年 稲葉滋
 1960年 梅田圭良
 1960年 笹治峻
 1963年 井上尚男
 1964年 八島秀雄
 1965年 石堂怜
 1965年 渡部一之
 1966年 上田裕一
 1966年 倉沢璋伍
 1966年 土谷喬
 1966年 原田芳紀
 1966年 村田歎吾
 1967年 小野塚昭三郎
 1967年 川田治夫
 1967年 林義之
 1968年 小林寛道

1969年 角田太作
 1975年 鈴木正保
 1982年 石村達清
 1982年 室城信之
 1983年 梅本道生
 1983年 小林徹
 1983年 八田秀雄
 1984年 半田禎
 1984年 渡辺吏
 1988年 寺田秋夫
 1991年 篠原聡
 1992年 福島敬司
 1994年 神田潤一
 1994年 工藤麻衣子
 1999年 工藤洋治
 2001年 稲澤晋
 2001年 西村邦裕
 2001年 普光真生
 2002年 大堀徳人
 2002年 佐藤康治
 2002年 仁井谷聖実
 2002年 仁井谷興史
 2003年 相原佑康
 2003年 帰山祐佳
 2003年 川添雄太
 2003年 出口雅俊
 2003年 橋本武
 2003年 藤原啓
 2003年 山崎智裕
 2003年 山本周
 2003年 和田真悠子
 2004年 村口和人
 2005年 浅野晃平
 2005年 桑原明
 2005年 津和佑子

2 新主将・新女子主将・新主務の言葉

2.1 新主将の言葉

新主将 竹内 昌男

これから1年間主将を務めさせていただく、跳躍パート3年の竹内昌男です。先日の京大戦におい

てはたくさんのOB・OGの方々のご出席をいただきまして、まことにありがとうございました。先輩方の大声援に背中を押され、現役部員たちも精一杯戦い抜くことができました。さて、今シーズンを振り返ってみますと、我が部は非常に苦しい戦いを強いられてきました。関東インカレでは獲得点数が4点、七大戦も昨年と同様の5位、京大戦では4年連続の敗北というように、やはり負けが目立ってしまいます。その原因として、実力がありながらも怪我によりそれを発揮できない選手が多く、彼らが試合で結果を残しきれなかったことがひとつの原因です。また、レベルの高い一番手がいるにも関わらず、二番手以降が相手に負けてしまい、結果として点を負け越してしまうという点も目立ちました。やはり、チーム全体の競技力における底上げが必要なのは言うまでもなく、各部員の練習や競技に対する自己意識が向上しなくては、このような負けの原因は払拭できないでしょう。まずはその部分からの意識革命が必要なのではないかと思っています。私の掲げる目標は関東インカレ1部昇格です。それとともにそのレベルで戦える選手をひとりでも多くこの部から輩出できればと思っています。現時点の戦力ではどうしても力不足、絵空事と言わざるを得ませんが、この冬期の鍛錬により必ずやその目標に近づいていけると確信しております。2部降格後、上2代の先輩方が成し得なかった目標に向かって力強く突き進みたいと思います。また、私自身これまで部に競技の面で何一つ貢献できておりません。しかし来期こそ必ず全国の猛者たちと戦える確固たる競技力を身につけ、それにより部をしっかりと牽引します。これから1年間、ますますご支援のほどよろしく願いいたします。

2.2 新女子主将の言葉

新女子主将 向田 恵

昨年度に引き続き女子主将を務めさせていただくことになりました中距離3年の向田です。女子は今年も七大戦で3位、京大戦で優勝とまずまずの成績を残すことが出来ました。しかし近年女子部員数が減少し続けており、選手層の薄さが浮き彫りになってきています。ですから今年度は現在

いる選手のレベルアップに加えて女子部員の獲得に力をいれ、さらに強い女子チームを目指したいと思います。本年度も関カレ出場、対校戦勝利といったお知らせを一つでも多くできるよう頑張っていこうと思いますのでご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

2.3 新主務の言葉

新主務 長澤 寛規

このたび主務に就任いたしました、長距離3年の長澤でございます。こうして主務に就いてみると、改めてその責務の重さを感じ、身の引き締まる思いがいたします。東京大学陸上運動倶楽部OB・OGの皆様には、これから1年間、様々な面でお世話になることと思います。一生懸命頑張ってみます。なにとぞ宜しくお願いいたします。

3 2005年度部内5傑 2005.9.28 現在

男子 100m

1	米田 武史 (4年)	10"78(+1.7)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	11"09(+1.8)	4.30
3	藤本 元太 (2年)	11"16(+1.3)	6.26
4	斉藤 拓海 (1年)	11"23(± 0.0)	7.30
5	相川 啓佑 (3年)	11"23(+1.4)	9.3

男子 200m

1	米田 武史 (4年)	22"10(-1.0)	6.19
2	瀧山 健 (3年)	22"5(+0.3)	4.3
3	今村 岳 (2年)	22"91(+1.0)	5.21
4	沖田 朋憲 (2年)	23"47(+0.9)	4.23

男子 400m

1	沖田 朋憲 (2年)	50"58	4.9
2	田中 佑貴 (4年)	51"41	5.21
3	今村 岳 (2年)	51"74	9.3
4	小澤 聡 (2年)	52"29	5.21

男子 800m

1	村井 昂志 (4年)	1'55"8	4.29
2	新井 邦生 (3年)	1'56"07	9.24
3	庄司 一郎 (4年)	1'56"98	7.31
4	割沢 高行 (3年)	1'59"94	4.9
5	黒澤 徹也 (3年)	2'00"77	6.19

男子 1500m

1	新井 邦生 (3年)	3'58"88	4.30
2	庄司 一郎 (4年)	4'04"63	9.3
3	斎藤 俊 (2年)	4'05"39	7.31
4	月崎 竜童 (2年)	4'07"34	5.21
5	割沢 高行 (3年)	4'08"20	9.3

男子 5000m

1	松本 翔 (2年)	15'16"47	7.31
2	石原 宏尚 (2年)	15'22"41	5.29
3	中原 健二 (4年)	15'23"8	4.23
4	村田 拓哉 (4年)	15'37"3	7.9
5	片岡 哲郎 (3年)	15'37"88	5.29

男子 110mH

1	尾崎 翔 (1年)	15"05(-1.0)	7.31
2	田中 啓 (5年)	15"40(+1.8)	7.31
3	梅沢 啓 (3年)	15"53(± 0.0)	5.21
4	堀内 敦史 (1年)	19"38(± 0.0)	9.3

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (3年)	56"75	9.24
4	門脇 啓太 (1年)	60"89	9.24
3	坂田 裕輔 (3年)	61"04	5.21
4	平林 学 (2年)	61"13	7.10

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (2年)	9'24"8	7.31
2	岡田 良平 (3年)	9'50"0	4.29
3	月崎 竜童 (2年)	9'56"5	5.28
4	山口 健介 (5年)	10'04"86	6.19
5	稲垣 誠 (4年)	10'20"77	6.19

男子 10000mW

1	菅野 雄大 (2年)	51'49"06	9.25
2	深尾 宙彦 (3年)	52'26"54	5.8
3	北沢 太郎 (1年)	54'19"72	6.19

男子 走幅跳

1	尾崎 翔 (1年)	6m98	9.3
2	竹内 昌男 (3年)	6m93	4.30
3	相川 啓佑 (3年)	6m89	5.21
4	武安 光太郎 (1年)	6m73	9.17

男子 三段跳

1	佐野 太郎 (3年)	14m31	4.9
2	倉員 智瑛 (2年)	13m87	4.9
3	武安 光太郎 (1年)	13m42	7.31
4	林 盛 (3年)	12m21	5.21

男子 走高跳

1	田中 啓 (5年)	1m90	6.19
1	持永 新 (3年)	1m75	9.3
2	小福田 大輔 (1年)	1m65	7.31
3	木村 剛 (2年)	1m55	6.19

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (1年)	4m00	6.19
2	持永 新 (3年)	3m70	4.23
3	木村 剛 (2年)	3m20	9.24

男子 砲丸投

1	小林 宗隆 (2年)	10m68	6.19
2	合田 隆彦 (3年)	10m57	7.31
3	持永 新 (3年)	10m37	4.29
4	庄司 宇 (2年)	10m17	4.2
5	関原 孝之 (2年)	9m99	4.2

男子 円盤投

1	合田 隆彦 (3年)	37m15	7.31
2	庄司 宇 (2年)	30m73	9.24
3	関原 孝之 (2年)	30m46	4.3
4	持永 新 (3年)	28m82	4.9
5	田上 遼 (3年)	27m72	7.31

男子 やり投

1	関原 孝之 (2年)	51m86	7.31
2	石井 仁也 (4年)	48m63	8.10
3	葉梨 輝 (1年)	41m88	9.3
4	田上 遼 (3年)	31m24	9.3

男子 ハンマー投

1	庄司 宇 (2年)	29m38	9.24
2	合田 隆彦 (3年)	29m36	9.24
3	小林 宗隆 (2年)	25m88	9.24

女子 100m

1	塩入 敦子 (5年)	12"91(+1.3)	7.31
2	小原 明恵 (3年)	13"02(+1.3)	7.31
3	堀越 彩香 (M2年)	13"58(+0.9)	7.30
4	倉員 麻奈実 (1年)	14"53(± 0.0)	9.24

女子 200m

1	小原 明恵 (3年)	27"51(+2.0)	6.19
2	堀越 彩香 (M2年)	28"27(+0.7)	6.19

女子 400m

1	塩入 敦子 (5年)	58"88	7.31
2	小原 明恵 (3年)	61"37	9.3
3	向田 恵 (3年)	65"01	9.3

女子 800m

1	目黒 亜由子 (M1年)	2'16"14	4.30
2	塩入 敦子 (5年)	2'21"33	7.31
3	向田 恵 (3年)	2'26"14	5.21
4	清水 里紗 (3年)	2'39"24	9.24
5	平野 茉来 (5年)	2'52"14	7.31

女子 1500m

1	向田 恵 (3年)	4'57"56	6.19
2	清水 理沙 (3年)	5'34"38	9.3

女子 3000m

1	向田 恵 (3年)	10'42"95	7.31
2	清水 理紗 (3年)	11"58"96	9.24

女子 400mH

1	塩入 敦子 (5年)	62"99	7.2
---	------------	-------	-----

女子 走高跳

1	倉員 真奈美 (1年)	1m35	7.31
2	本間 諒子 (2年)	1m25	7.31

女子 走幅跳

1	堀越 彩香 (M2年)	4m84(± 0.0)	7.30
2	本間 諒子 (2年)	4m72	5.21
3	小原 明恵 (3年)	4m70	7.31

女子 棒高跳

1	本間 諒子 (2年)	3m00	5.8
---	------------	------	-----

女子 砲丸投

1	倉員 真奈美 (1年)	7m70	9.24
2	本間 諒子 (2年)	7m23	7.31

文責 佐野太郎